

青年企画委員会活動報告

第4回 建築甲子園静岡県予選公開審査会

本会青年企画委員会 山本 剛士

第4回 静岡県建築甲子園静岡県予選公開審査会が平成25年11月9日午後1時30分より静岡市産学交流センター（ペガサート）にて開催されました。

今年で4回目となる建築甲子園は日本の建築の将来を担う高校生を対象に、研究・創作活動に対するコンペで、『甲子園』の名称のとおり、県予選大会と全国選手権大会との2部構成で行われている。



プレゼンの様子

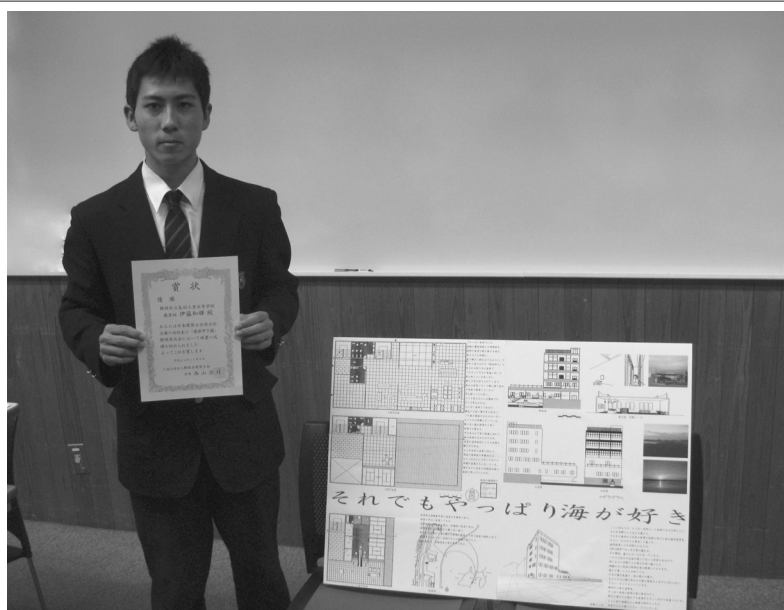
今年のテーマは例年と同じ、『地域のくらし』。変わる必要がないほど本質的な課題であり、昨年より更なる試みや新しい展開が期待できるテーマです。

今年度の参加校は島田工業高校の作品1点でした。タイトルは『それでもやっぱり海が好き』 焼津のカツオ漁師の生活を題材に、焼津漁港にせり出しで作られたカツオ漁師の住宅兼船着き場のプランで、海と漁師そして生活の繋がりが提案してありました。

現在漁師後継者不足・津波など焼津の抱えている問題や現状をしっかりと見つめている作品でした。テーマを良く理解出来ている計画であり地域の文化、現状についても良く調べてあるように思えました。ただプレゼンによって作品の内容が深く理解できるような形なのでもう少し図面に表記した方がより良い作品になるように感じました。



質疑の様子



伊藤和輝さんと作品

今年は残念ながら参加校が1校になってしまい、静岡県の代表校を決定する場としては盛り上がり欠けるような気がしました。今後どのようにすれば参加校が増やせるかが開催者側の課題であるように思います。

東部ブロック青年企画委員会活動報告

照明LEDの勉強会及びママチャリGP参加

東部ブロック青年企画委員会 三田 芳之

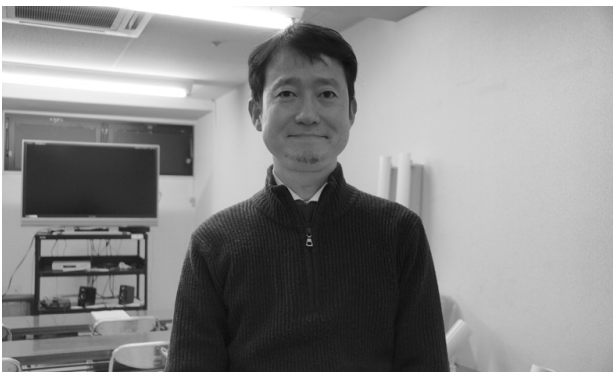
東部ブロック青年委員会として11月16日、12月7日の2回にわたり、LEDの勉強会を開催しました。前回平成9年にも照明の勉強会を開催しましたが、その時はまだLEDについては高価で扱いが難しい照明器具でしたが、現在はあるコツさえつかめば、従来の器具と同様に扱える照明器具である事を、前回にも講師をしていただいたパナソニック株式会社 墨 貞宏 先生に講師を勤めていただきました。



座学と実践を行い、どんな場面でどんな効果が現れるかなどを実際に器具を使い検証を行いました



カタログからは判らない効果も実際に試してみると一目瞭然です



講師 パナソニック株式会社 墨 貞宏氏

また、1月12日には、富士スピードウェイにて開催されたママチャリGPに参加し、会員交流と、建築士のPR活動を行いました。

今回は、前回の東海北陸ブロック大会での静岡県の活動報告で参加したことの発表を行ったところ、THB青年チームとして、福井・三重・岐阜より19名集結し、交流とPR活動と一緒にやる事が出来ました。



2本ののぼり旗をつけてPR活動



最後に集合写真

『 "田舎の学問より都の昼寝"風企画

・・・東京駅の復原プロジェクト担当者による講義を聴きに行くバスツアー』

報告；JIN KURITA

トラブルのないトラベルなんて・・・

日本語にすると1文字しか違わないから、「語源が一緒じゃないか？」と勘繰っても不思議はない。実は一緒じゃなくて、原語で書くと、troubleとtravelだから全然違う。語源の資料を紐解くと、troubleの語根はturb-であり、disturb(邪魔する、かき乱す)、turbulence(乱気流、大騒ぎ)の例が挙げられている。

一方のtravelはフランス語のtravail(トラバユ、労働、苦役、労苦、劳作)に近く、「旅の骨折り」という意味を纏った。語源を共有しないが、意味としては、それほど遠くもないという微妙な位置にある。

さて、静岡県中西部以外の日本列島が数十年ぶりの大雪とかで、士会中部ブロックの研修企画バスツアーの実施が前日まで危ぶまれていた。優秀な企画担当者の「強気の読み」により、2/9、予定通りの出発となった。

「トラブルのないトラベルなんて、面白いこともなんともない」…という認識からは、実に楽しく思いついた旅となった。東名の富士川SAを出てまもなく見事な大渋滞。路肩の電光案内には「横浜町田まで5時間以上」という表示。

少なからぬ参加者が「その日の内に東京に着けない」ことを覚悟した。沼津港のグルメ街に目的地を代えてという案もまことしやかにささやかれ始めるが、その沼津までがまだまだ遠い。

こういう話から書き起すと、レポートが終わるまでに120ページくらいになるので、結論を急ぐと、企画担当者のスマホによる優れた情報収集により「裾野から先は流れている」ことが付きとめられ、2時間強の遅れで八重洲口、東京国際フォーラムと鉄道高架を挟んだ位置のバス・パーキングに到着。

北に向かって歩き、完成して間もない東京駅八重洲口の大屋根「グラン・ルーフ」(日建設計)を左に見て徒歩で講義の会場へ。

復元と復原は違う・・・

東京駅の100年ぶりの復原工事を担当した、静岡市駿河区出身、静岡学園～工学院大学～東大大学院という学歴の大内田史郎氏(38)による講義のタイ

トルは"『発見、保存、再生』未来に遺し伝えるために"。

よく出来たパワーポイントの資料により、興味深い画像が多く、講義の時間が短く感じられた。私たちの質問にも、的確にお答えいただいた。(ありがとうございました。)

ちなみに、復元は残っていないものの回復、復原は一部がのこっているものの回復、と大内田氏流の使い分けである。

自由時間(放課後)は4時間のはずだったが・・・

東京駅の復原工事の講義と実物の東京駅観察がメインの企画であったが、少なからぬ参加者が「放課後」の自由時間4時間をそれぞれ「都の昼寝」ならぬ、都の街巡りの腹案をもち、楽しみにしていたが、往路で、冒頭述べたような「歩いた方が早いような時間帯」が2時間強あったために、半減することとなる。

以下は報告者の個人的な過ごし方の紹介となる。降り積もった雪が半分くらいシャーベット状になった歩きにくい街を歩き回った。

*都立美術館(設計;前川國男)で、国際水墨画展(知人が出品なさっている)参観。

*岩崎邸(設計;ジョサイア・コンドル)・・・日が暮れ、時間切れのため雪景色の外観のみ撮影。

*東京郵便局再開発・JPタワー(設計;三菱地所+マーフィー/ヤーン、Kitte部分は隈研吾事務所)以上で集合時間ぎりぎりとなる。

銀座の伊東屋で、澁谷のハンズで、半日十分に遊べるように、Kitteの商業施設部分でも、レベルの高いテナント構成で、それぞれの店で「ハッ!」とするような魅力的な商品構成や見せ方、店舗の魅力的な空間操作に酔わされ、啓発され、時間を忘れる。「都の昼寝・下見編」のみにて終了。

復路のバス内、Mさん、赤ワインをご馳走さま!

Aさん、ウィスキーのロックをご馳走さま!

(最後になりましたが、今回の企画を担った皆様には感謝に堪えません。ありがとうございました。)



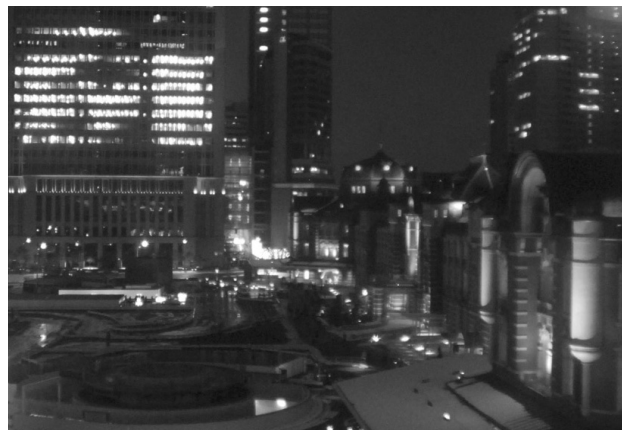
講義の様子



雪の国立博物館



kitteのアトリウム



kitte旧局長室から見る東京駅